

H25

中核

16-②

## 平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」実績報告書

## 1. 分野名

⑬観光

「その他」分野名

## 2. 事業名称

世界と群馬をつなぐプロデュース能力をもった観光人材(=観光プロデューサー)を養成する学習システムの開発

## 3. 産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトの別

職域プロジェクト

## 4. 代表機関

## ■ 代表法人(申請法人)等

法人名	学校法人有坂中央学園
理事長名	中島 利郎
学校名	中央情報経理専門学校
所在地	〒 371-0844 群馬県前橋市古市町1-49-4

## ■ 事業責任者(事業全体の統括責任者)

職名	副校長
氏名	中島慎太郎
電話番号	027-253-5544
E-mail	<a href="mailto:nakajima.shintaro@chuo.ac.jp">nakajima.shintaro@chuo.ac.jp</a>

## ■ 事務担当者(文部科学省との連絡担当者)

職名	経営企画本部
氏名	武藤 俊史
電話番号	027-256-7000
FAX番号	027-253-5595
E-mail	<a href="mailto:keieikikaku@chou.ac.jp">keieikikaku@chou.ac.jp</a>

## 5. 産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトの構成員・構成機関等

(1) 構成機関(機関として本事業に参画する学校・企業・団体等)

	構成機関(学校・団体・機関等)の名称	役割等	都道府県名
1	学校法人有坂中央学園 中央情報経理専門学校	総括	群馬県
2	学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校	コンソーシアム統括団体	富山県
3	学校法人麻生塾 麻生外語観光・製菓専門学校	プログラム開発協力校	福岡県
4	学校法人辰巳学園 奈良情報経理高等専修学校	プログラム開発協力校	奈良県
5	学校法人龍沢学館 盛岡カレッジオブビジネス	プログラム開発協力校	岩手県
6	学校法人龍馬学園 高知情報ビジネス専門学校	プログラム開発協力校	高知県
7	群馬県企画部世界遺産推進課	行政分野(観光政策)	群馬県
8	富岡市世界遺産まちづくり部	行政分野(観光政策)	群馬県
9	下仁田町教育委員会	行政分野(観光政策)	群馬県
10	藤岡市教育委員会	行政分野(観光政策)	群馬県
11	伊勢崎市教育委員会	行政分野(観光政策)	群馬県
12	深谷市産業振興部	行政分野(観光政策)	埼玉県
13	群馬県観光物産国際協会	観光分野	群馬県
14	渋川伊香保温泉観光協会	観光分野(温泉地)	群馬県
15	安中市観光協会	観光分野(温泉地)	群馬県
16	みなかみ町観光協会	観光分野(温泉地)	群馬県
17	公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー	観光分野	神奈川県
18	一般社団法人日光観光協会	観光分野	栃木県
19	群馬県商工会議所連合会	商工分野	群馬県
20	富岡商工会議所	商工分野	群馬県
21	しぶかわ商工会	商工分野	群馬県
22	みなかみ町商工会	商工分野	群馬県
23	安中市商工会	商工分野	群馬県
24	草津温泉 ホテル櫻井	観光分野(宿泊業)	群馬県
25	群馬 谷川温泉 旅館たにがわ	観光分野(宿泊業)	群馬県
26	伊香保温泉 福一	観光分野(宿泊業)	群馬県
27	磯部温泉 舌切雀のお宿 磯部ガーデン	観光分野(宿泊業)	群馬県
28	日本絹の里(財団法人群馬県蚕糸振興協会)	観光分野(博物館)	群馬県
29	JA群馬中央会	農業分野	群馬県
30	群馬国際ビジネス協同組合	国際分野	群馬県
31	群馬日仏協会	国際分野	群馬県
32	上毛新聞社	マスコミ	群馬県

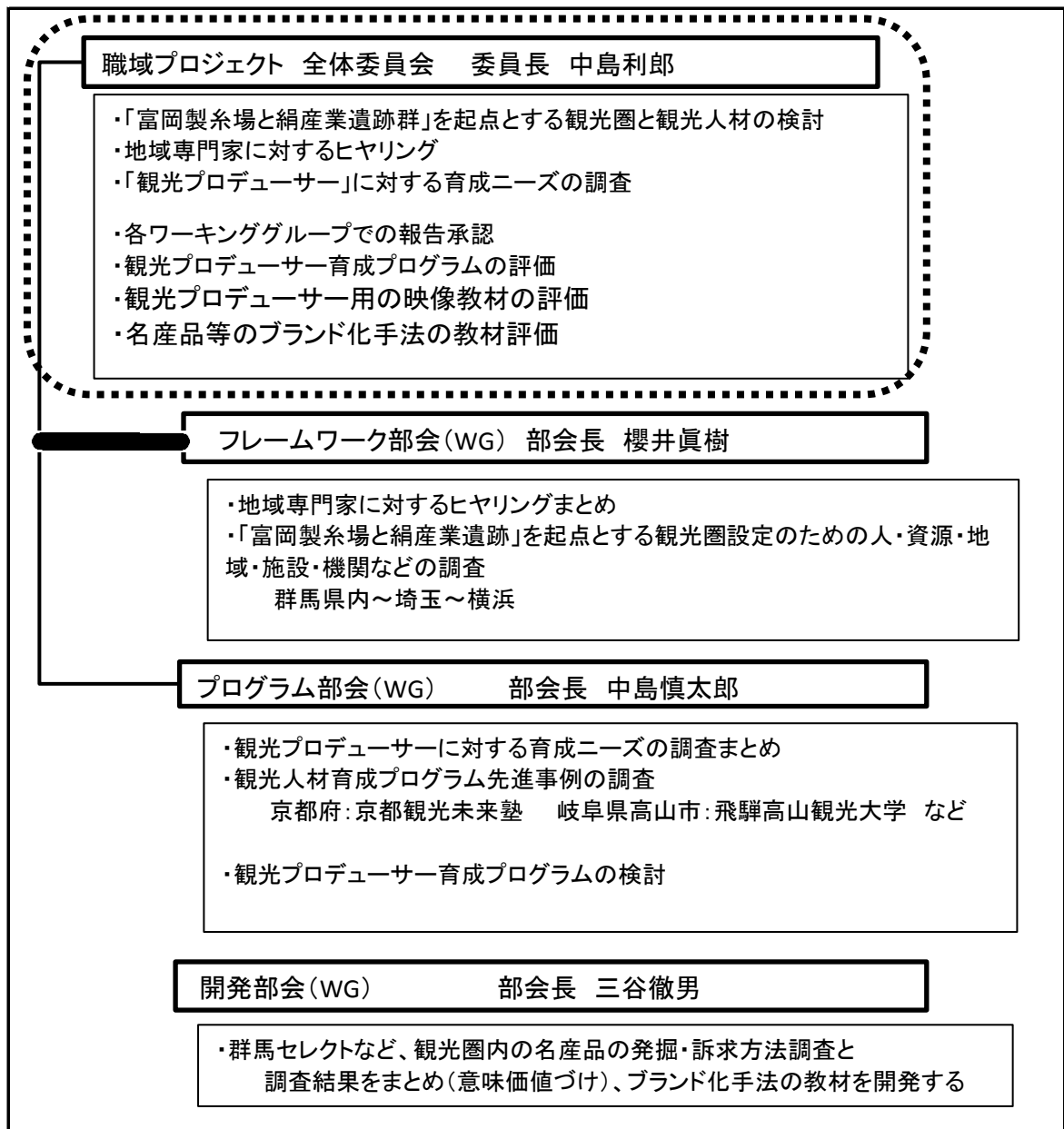
## (2) 協力者等(委員など個人で本事業に参画する者等)

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
大宮 登	高崎経済大学教授	学識経験者	群馬県
岡野 眞	岡野設計監理事務所 所長	建築分野・有識者委員	東京都
山下貞麿	日本レコードマネジメント(株) 会長	有識者委員	東京都
茂木 晃	群馬地名研究会 副会長	郷土史分野・有識者委員	群馬県
天田清之助	(株)サンデン 特別顧問	産業界・有識者委員	群馬県
桐原正明	(株)エルグ 社長	産業界・有識者委員	群馬県
石井繁紀	(株)石井設計 社長	建築分野・有識者委員	群馬県
新井孝雄	(株)ヤマト 社長	産業界・有識者委員	群馬県
鹿島保宏	鹿島エレクトロ産業(株) 社長	産業界・有識者委員	群馬県
榊原 明	NTT群馬支店長	IT分野・有識者委員	群馬県
戸松 智	(株)JTB関東 法人営業群馬支店長	観光分野・有識者委員	群馬県
桜井眞樹	映画プロデューサー	映像分野・有識者委員	東京都
尤 憲迅	上海光明法律事務所弁護士	国際分野・有識者委員	中国・東京
田中幸雄	元日本郵船・中国観光会社	国際分野・有識者委員	東京都
根岸幸一	尾瀬花の会	有識者委員	群馬県
井上 聰	群馬銀行 法人部部長	産業界・有識者委員	群馬県
瀬下 信	しののめ信金 理事長	産業界・有識者委員	群馬県
高橋伸二	NPO法人富岡製糸場を愛する会 理事長	有識者委員	群馬県
山本詔一	横須賀開国史研究会	有識者委員	神奈川県
高橋純一	甘楽富岡蚕桑研究会	有識者委員	群馬県
小林 保	甘楽福島瓦製造業組合理事長	有識者委員	群馬県
近藤 功	富岡製糸場世界遺産伝道師協会	有識者委員	群馬県
村上泰賢	東善寺 住職	有識者委員	群馬県
三谷徹男	(株)CRI中央総研 社長	研究分野・有識者委員	群馬県
高木達也	(株)CRI中央総研 専務	研究分野・有識者委員	群馬県

## (3) 下部組織 (設置は任意)

名称( )			
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名

#### (4) 事業の実施体制図(イメージ)



## 6. 事業の内容等

### (1) 事業の目的・概要

地域が連携し一つの「観光圏」になるためには、コンセプトを明確にし、ブランド化していくことと、同時にその実現を図る「観光プロデューサー」が欠かせない。

本事業は「富岡製糸場と絹産業遺産群」を起点に、「人と資源と世界」を繋ぎ、そこから一つの物語を創り、新しい名品を発掘・開発し、さらに世界に向けてそれらの情報発信ができる人材＝「観光プロデューサー」の育成を目指すものである。

## (2) 事業の実施意義や必要性について

### ① 当該分野における人材需要等の状況、それを踏まえた事業の実施意義

観光産業が今ほど期待されたことは過去にない。人口減少の中で国内観光市場とインバウンド市場の潜在力は高く成長期待があるが、そこで求められる「観光地」は従来型のモノではなく、広い地域の様々な観光構成要素(人、資源、文化、グローバル性等)を結び合わせて、新しい価値を提供し得る「観光圏」であることが求められている。平成20年に施行された観光圏整備法はそれを促進しようとしている。

それを実現するためには、地域の関係機関が連携し、「観光地域づくりプラットフォーム」を形成し、その観光圏をブランド化していくことと同時に、それらを実現していくために欠かせない「観光プロデューサー」を育成していくことが求められる。

本プロジェクトで育てようとする「観光プロデューサー」は「人をつなぐ 資源を繋ぐ 世界をツナグ」をコンセプトに、一つの物語(蘊蓄)を企画し、地域の様々な品々を厳選し、かつ新しい土産を発掘・開発する、さらに映像を活用したHPを企画し、世界に向けて情報発信すること、勿論物語を語り観光圏をガイドできる・・・そうした「人・資源・世界を繋ぐ」ことのできる＝プロデュースできる、創造的な人材である。

折しも群馬県にあっては「富岡製糸場と絹産業遺産群」が、世界遺産の候補(長い間生産量が限られていた生糸の大量生産を実現した「技術革新」と、世界と日本との間の技術の「交流」を主題とした近代の絹産業に関する遺産)となっており、早急に地域の関係機関が連携し、観光圏としてのブランド化の道を探り、かつ人材の育成を図っていく必要がある。

### ② 取組が求められている状況、本事業により推進する必要性

観光圏を形成しようとするとき、3つの壁が立ちはだかるという。第一の壁は、地域の壁、第二の壁は官民の壁、第3の壁は産業と住民の壁と言われる。本プロジェクトはまず第一に「住んでよし、訪れてよし」を目指して、関係する機関が地域を超えて集まり協議するものとする。

また、「富岡製糸場と絹産業遺産群」が、世界遺産の候補になったと言え、他の世界遺産・世界遺産候補の地域とは明確に差別化された観光圏コンセプトが必要である。

従って、本プロジェクトに参集した委員により「富岡製糸場と絹産業遺産群」を起点に、「人をつなぐ 資源を繋ぐ 世界をツナグ」ことで、観光圏のコンセプトを研究し、ブランド化の方向性を探り、それを推進する「観光プロデューサー」を育成する。

## (3) 前年度までの取組概要・成果と本事業との継続性

(平成23年度事業)

・取組概要

・事業成果

・本年度事業との継続性(成果を今年度の取組にどのように活用するのか)

(平成24年度事業)

・取組概要 「インバウンド観光客の受け入れを支える観光分野の中核的専門人材育成事業」

今後成長が見込まれる東アジアからの訪日旅行を支えるために必要な中核的専門人材の中から、宿泊分野に焦点を当て、キャリアロードマップや大学・専門学校で行われている観光教育の特性を活かした単位互換性のモデルカリキュラムや職業能力評価基準などの開発を行った。

・事業成果

職域プロジェクト「創造性豊かな中核的ツアープランナー育成プロジェクト」では、人材育成ロードマップ、カリキュラム並びにテキストが開発された。

#### (4) 事業の成果目標

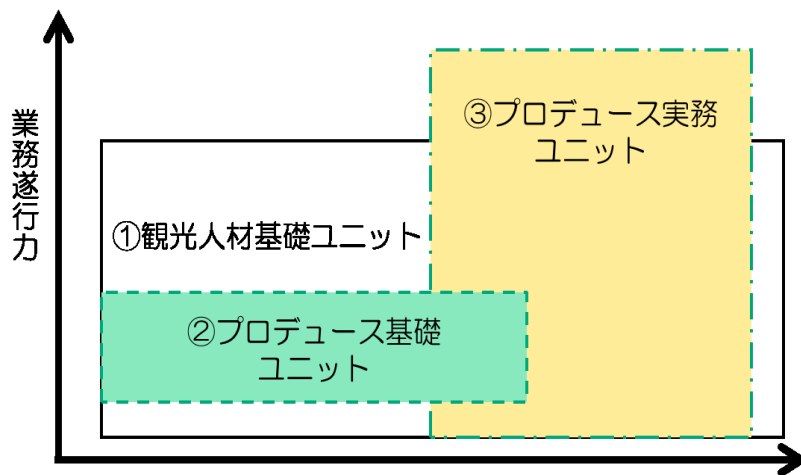
①事業計画書に記載されている活動指標(アウトプット)・成果目標及び成果実績(アウトカム)

##### 成果目標

- ・観光プロデューサー育成プログラム レベルに応じた発展モデル  
求められる能力区分と評価基準
- ・教材「名品の成功シナリオ」  
観光圏内の名産品を調べ、意味づけ価値づけすると共に、どのようにして名品となっていたか成功パターンを見出し、名産品をプロデュースする方法研究の教材とする
- ・観光プロデューサー育成のための映像教材の制作  
観光プロデューサーの能力要件として、プロデュース能力とIT技術を活かしたプロモーション能力が挙げられる。  
本映像教材はその2つの能力開発を目的として、下記の内容で構成する。
  - ・プロデュース実務編・・・観光圏をプロデュースするプロセスを教材化し、プロデューサーがどの様に企画し、商品化・ブランド化していくのかが分かるものにする。映像はHP動画の素材になり得るもので、次年度はこの素材を元にHP化してプロモーション技術の開発教材に繋げる。また、これら教材をeラーニング教材の開発に繋げていく。

②上記目標等に対する達成等状況

- ・観光プロデューサー育成プログラム  
育成すべき観光プロデューサーの人材像・役割・業務を定義し、その上で、「観光人材基礎ユニット」「プロデュース基礎ユニット」「プロデュース実務ユニット」でプログラムを構成することとした。



・教材「地域における商品開発とブランディング」

富岡地区の名産品・名店を3事例調べ、意味づけ価値づけすると共に、どのようにして名品・名店となっていったかをまとめ、事例に学ぶブランド戦略とした。また、ブランディングするための理論としてマーケティング理論を展開し、商品開発を行う上で有効なビジネスモデルジェネレーションの活用法を説く内容とした。尚、本テキストを500部制作した。

・観光プロデューサー育成のための映像教材の制作

観光プロデューサーとは何か、どんな役割を持ち、どのように観光圏をプロデュースするのか、プロデューサーが行う業務そのもののプロセスを実際に行い、映像化した。内容は次の通り。

イ. 観光プロデューサーとは何か

ロ. 観光プロデューサーの役割・業務

ハ. 富岡製糸場を中心とした地域での観光プロデューサーの実務

(5) 事業の実施内容(※本事業の運用方針及び基本方針等を踏まえ具体的な取組内容を記載すること)

① 会議(目的、体制、開催回数等)

第1回全体委員会

日時 平成25年8月20日(火)14:00～17:00

会場 アンバーサリーコートラシーネ 3階ロイヤルオーキッド(群馬県前橋市)

議題 ・主催者挨拶

・委員紹介

・事業の概要及び背景

・事業計画

・意見交換

・今後のスケジュール



第2回全体委員会

日時 平成25年10月22日(火)13:00～17:00

会場 JA甘楽富岡ヴァンヴェール「孔雀の間」(群馬県富岡市)

議題 ・富岡製糸場 その歴史と世界遺産登録への道

・富岡製糸場とその周辺 フィールドワーク

・観光人材育成ニーズのヒヤリング

・意見交換

・今後のスケジュール



### 第3回全体委員会

日時 平成25年12月12日(木)13:30~16:30

会場 アニバーサリーコートラシーネ 3階「葵」(群馬県前橋市)

議題 ・事業進捗状況報告

- ①プログラム開発に関する調査
  - ②商品開発プレ調査
  - ③フィールドワーク結果
  - ④富岡製糸場と絹産業遺産群の歴史
  - ⑤映像収録報告
- ・意見交換
  - ・今後のスケジュール



### 第4回全体委員会

日時 平成26年2月14(金)11:30~16:30

会場 アニバーサリーコートラシーネ 3階「ロイヤルオーキッド」(群馬県前橋市)

議題 ・研究成果報告

- ①観光人材育成プログラム開発
  - ②富岡製糸場を中心とした観光圏コンセプトの検討
  - ③観光プロデューサー映像教材開発
  - ④地域における商品開発とブランディング
- ・シンポジウムの内容と運営
  - ・意見交換

上記の全体委員会に加え、下記の分科会を実施し、プログラム開発、教材開発を行った。

フレームワーク部会	: 全3回開催
開発部会	: 全3回開催
プログラム部会	: 全3回開催

### ② 調査等(目的、対象、規模、手法、実施方法、結果概要等)

・観光プロデューサー育成に関するニーズ調査

全体委員会第1回・第2回開催時におけるヒヤリング調査

- ・観光客を増やすにはリピーターを増やすことが必要であり、その点で、プランナーではなく、プロデューサーという人材が求められている。
- ・観光地における地域経営とおもてなし人材が必要。観光人材は、特異性を磨くこと、体験することが必要。観光地が生き残るためにどんなプロデュースができるか。経営に大事なことは仮説設定能力と情報収集選定能力。
- ・地域の特性を理解することも必要になる。地域の特性を理解する方法として、フィールドワークがあるなど。



・既存教育プログラムの整理

平成24年度事業「観光分野産学連携コンソーシアムでの「観光分野 宿泊業系が学べる大学・専門学校の教育概要調査」を活用し、①学校種別の特徴・傾向、②開講科目からみた特徴・傾向を整理した。

・先行教育プログラム(社会人対象)の整理

観光庁による「観光地域づくり人材育成支援事業」報告書から、観光地域づくり人材育成のためのガイドラインを把握した。尚、観光地域づくりの人材を役割と能力は、中核人材と支援人材に区分され、さらに、中核人材は、「プレイヤー型」と「マネジメント型」に分けられていた。また、人材能力について、「構想実現力」「業務遂行力」の2つに大きく分けて定義されていた。

・先行教育プログラムの調査・研究(先進事例視察調査)

イ. 信州・観光地域づくりマネジメント塾

ロ. とやま観光未来創造塾

ハ. 京都観光創造未来塾(HP調査)

ニ. 観光プロデューサー養成講座(さっぽろ雇用創造協議会 HP調査)

以上の調査結果を元に、観光プロデューサー育成プログラムの開発に繋げた。

③ モデルカリキュラム基準、達成度評価、教材等作成(目的、規模、実施体制、成果物概要等)

・観光プロデューサー育成プログラム

育成すべき観光プロデューサーの人材像・役割・業務を定義し、その上で、「観光人材基礎ユニット」「プロデュース基礎ユニット」「プロデュース実務ユニット」でプログラムを構成することとした。

・教材作成

イ. 「地域における商品開発とブランディング」

富岡地区の名産品・名店を3事例調べ、意味づけ価値づけすると共に、どのようにして名品・名店となっていったかをまとめ、事例に学ぶブランド戦略とした。また、ブランディングするための理論としてマーケティング理論を展開し、商品開発を行う上で有効なビジネスモデルジェネレーションの活用法を説く内容とした。

ロ. 映像教材「観光プロデューサー養成」

観光プロデューサーとは何か、どんな役割を持ち、どのように観光圏をプロデュースするのか、プロデューサーが行う業務そのもののプロセスを実際に行い、映像化した。

④ 実証等(目的、対象、規模、時期、手法、実施方法、実証結果概要等)

※今年度は、実証は行っていません。

⑤ 成果のとりまとめ等

・観光プロデューサー育成プログラム

育成すべき観光プロデューサーの人材像・役割・業務を定義し、その上で、「観光人材基礎ユニット」「プロデュース基礎ユニット」「プロデュース実務ユニット」でプログラムを構成することとした。

・教材「地域における商品開発とブランディング」

富岡地区の名産品・名店を3事例調べ、意味づけ価値づけすると共に、どのようにして名品・名店となっていったかをまとめ、事例に学ぶブランド戦略とした。また、ブランディングするための理論としてマーケティング理論を展開し、商品開発を行う上で有効なビジネスモデルジェネレーションの活用法を説く内容とした。

・観光プロデューサー育成のための映像教材の制作

観光プロデューサーとは何か、どんな役割を持ち、どのように観光圏をプロデュースするのか、プロデューサーが行う業務そのもののプロセスを実際に行い、映像化した。

(6) 事業終了後の方針について(成果の活用、継続性、発展性 等)

(事業成果の普及)

- ・事業成果報告書(事業の実施状況及び研究成果・観光:プロデューサー育成プログラムを含む)  
規 模 :200冊  
手 法 :関係教育機関 100校 関係機関 50先 へ郵送配布  
尚、残り50冊は成果報告会時に配布する。
- ・教材「地域における商品開発とブランディング」  
規 模 :500冊  
手 法 :関係教育機関 100校×2冊 関係機関 50先×1冊 へ郵送配布  
成果報告回(シンポジウム)で配布 50冊  
次年度教材として活用 200冊
- ・映像教材「観光プロデューサー養成」  
規 模:今期は原盤作成までとし、来年度以降、教材として配布できるようにする。

・地域ブランディング・シンポジウム

会 期 平成26年年2月14日(水)

会 場 アニバーサリーコートラシーネ 3階「葵」(群馬県前橋市)(東京)

【基調講演】PAOSグループ代表 中西元男

【パネルディスカッション】

「富岡製糸場と絹産業遺産群の世界遺産登録を目指して」

【コーディネーター】

高崎経済大学地域政策学部 教 授 大宮 登

【パネラー】

群馬県企画部世界遺産推進課 課 長 松浦利隆

富岡製糸場総合研究センター 所 長 今井幹夫

公益財団法人群馬県観光物産国際協会  
理事長 田村亮一

一般社団法人群馬日仏協会 専務理事 梅津宏規

中央カレッジグループ 理事長 中島利郎

・専修学校フォーラム

会 期 平成26年年2月26日(水)

会 場 中野サンプラザ(東京)

主 催 一般社団法人全国専門学校情報教育協会

・中央カレッジグループ 成果報告会

会 期 平成26年3月6日(木)

会 場 アニバーサリーコートラシーネ(群馬県前橋市)

主 催 中央カレッジグループ

(事業成果の活用等)

【次年度以降】

- ・実施校並びに連携校にて、観光プロデューサー育成プログラムによる教育の試行と検証を行う。
- ・観光プロデューサー育成用映像教材を元にHP化(動画)、プロモーション技術力開発教材に繋げる。
- ・短期プログラム化し観光産業関係者に対する講座を開講する。